

正解及び解説・出典シート

第1 地理分野

問1 ウ

平成20年に当時奈良県内で一番人口の多い町であった田原本町を追い抜き、奈良県で最も人口の多い町となりました。

「広陵町ホームページ」

問2 ア

「舞太鼓あすか組」は、平成2年に設立され、フランス五大陸国際音楽祭、イスタンブール国際音楽祭等に出演し、カイロオペラハウス、ロシアクレムリン宮殿ほか、国内47都道府県、世界21か国で公演を行っている。世界最大の芸術祭、英国エジンバラフリンジでの1か月公演において、各メディアより五つ星の評価を獲得し、「観衆の世代を越えた音楽とパフォーマンスの世界共通語がここにある」と絶賛されました。

「舞太鼓あすか組」ホームページ

問3 エ

竹取公園は、広陵町西部にある子どもから大人までが楽しめる都市公園です。6.5haの広々とした敷地内には、子どもたちがソリ遊びを楽しめる「ちびっこゲレンデ」をはじめとする多くの施設があり、休日には子どもたちの歓声が響き渡ります。

『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P19

問4 ウ

広陵町は、北東から時計回りに三宅町、田原本町、橿原市、大和高田市、香芝市、上牧町、河合町と7市町に囲まれています。

第2 歴史分野

問5 エ

帝は、二度と会うことのできないかぐや姫を慕って、手紙と不死の薬を富士山で焼いたとあります。

『広陵町史』本文編P986

問6 エ

大福寺は、江戸時代には30石が下付され、徳川家康から家茂までの歴代将軍の朱印状が残っています。

『広陵町 暮らしのガイド2017』P16、『広陵町史』本文編P906～907

問7 ア

箸尾城は、箸尾氏の居城で中世末から勢力を伸ばして代表的な大和武士に成長しましたが、天正8年（1580年）織田信長の一国一城令により破却され、箸尾氏は筒井順慶の与力となることを命じられました。

『広陵町史』本文編P248～249、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P110

問8 ウ

喜多見勝忠は、代々北条氏に仕えていましたが、豊臣秀吉の小田原征伐で北条氏が没落した後、徳川家康に召されて家臣となりました。

『広陵町史』本文編P263～264

問9 イ

『和州郡山御城付御知行割帳』（元和元年（1615年））には、この書類に目を通した証しとして「北見五郎左衛門（花押）」と書いています。

また、この頃は「北見」の漢字を使っていたことがわかります。

『広陵町史』史料編下巻P16

問10 イ

昭和30年4月に馬見町、瀬南村及び百済村が合併して広陵町が発足し、昭和31年9月に箸尾町が編入し、昭和32年7月に池尻及び藤森が分町して大和高田市に編入合併されました。

『広陵町史』本文編P689～693・1093、『町勢要覧2014』P9

問11 ア

建設省（当時）から平成11年に受賞しました。

『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P9

問12 エ

松本家住宅は、屋敷地が道路を挟んで南北にあり、南側には主屋、内蔵、辰巳蔵、道具蔵、下男部屋・柴小屋、納屋、表門・塀が並び、北側には乾蔵、米蔵・納屋、門屋が立ち並びます。

豪農の暮らしを今に伝える昭和初期の建物が一群で残り、歴史的価値が高いと評価されています。

『広報こうりょう』平成29年9月1日号P14

問13 ウ

柱の部分（竿）は、断面四角形で上部が左右に丸くふくらみ、基礎がなく直接地面に埋め込まれています。茶人の古田織部の墓にあったことから“織部形”と呼ばれます。

竿が十字架に見えることから隠れキリシタンがつくったという俗説がありますが、根拠はまったくありません。

『広報こうりょう』平成28年12月1日号

第3 古墳分野

問14 ア

巢山古墳は、大型の前方後円墳です。発掘調査により全長が約220mと判明しました。昭和27年に特別史跡に指定され、平成元年に外堤が追加指定されました。

『広陵町史』本文編P34～38、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P11～13

問15 ウ

埋葬施設は、後円部に2基あると考えられており、前方部にも小石室があると考えられています。

『広陵町史』本文編P34～38、『文化財と自然探訪マップ』

問16 エ

勾玉、管玉、棗玉等の玉類、鍬形石、車輪石、石釧等の石製品、刀子、斧等の滑石製品が出土しました。また、鏡、冠、銅釧の出土も伝えられています。

『広陵町史』本文編P36、『ふる里の文化財をたずねて』P11

問17 イ

巢山古墳は、5世紀初頭に築造されたと考えられ、人物埴輪が作られるのは5世紀中頃からと考えられています。

『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P11～13

問18 ア

『古事記』仲哀記、神功皇后が皇子（応神天皇）を乗せたと偽って香坂皇子・忍熊皇子の反逆に対抗しました。

『ふる里の文化財をたずねて』P11～13

問19 エ

直径48～60m、高さ13mで、三段築成の円墳です。昭和32年に国の史跡に指定されました。

『広陵町史』本文編P66～71、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P17

問20 ア

牧野古墳から出土した須恵器の時期、『延喜式』の記載などから、被葬者は押坂彦人大兄皇子と考えられています。

『広陵町史』本文編P66～71、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P17

問21 ウ

現在は、奥壁手前の刳り抜き式家形石棺のみ残っています。

『広陵町史』本文編P66～71、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P17

問22 イ

底石は、文代山古墳近くの下池の吐水口の橋に転用されていました。

『広陵町史』本文編P56～59、『文化財と自然探訪マップ』

問23 ウ

乙女山古墳は、全長130mの帆立貝形古墳で、帆立貝形古墳としては全国第2位の大きさです。周濠の東半分は広陵町の飛び地です。昭和31年に国の史跡に指定されました。

『ふる里の文化財をたずねて』P123

問24 ウ

三吉石塚古墳は、全長45mで、後円部に短い前方部がつく帆立貝形古墳です。平成4年に県の史跡に指定されました。

『広陵町史』本文編P52～55、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P15

問25 イ

縦方向の石列間が一つの作業単位と考えられています。

『広陵町史』本文編P52～55、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P15

問26 エ

現地では、埴輪列も忠実に復元されています。
『三吉石塚古墳』リーフレット

問27 ア

新木山古墳は、全長200mの前方後円墳です。明治15年に土地所有者が発掘して玉類が出土し、明治18年に陵墓参考地に治定されました。
『広陵町史』本文編P42～44、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P14

問28 イ

巢山古墳と同じく両側のくびれ部に造出があり、発掘調査で周濠は一重であることがわかりました。石塚古墳は5世紀後半の築造で、5世紀前半に造られた新木山古墳とは時期差があります。
『広陵町史』本文編P42～44、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P14

問29 イ

新山古墳は、全長126mの前方後方墳です。北側の発掘調査で出土した埴輪の検討から、古墳時代前期中葉の築造と考えられています。
『広陵町史』本文編P22～30、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P10

問30 ア

明治18年に後方部が採掘され、竪穴式石室から直刀、銅鏡、車輪石、石釧、管玉、帯金具等が出土しました。翌年に買い上げられて御陵墓伝説地（今の陵墓参考地）に治定されました。
『広陵町史』本文編P594、『ふる里の文化財をたずねて』P10

問31 ウ

直弧文鏡3面、三角縁神獣鏡9面、画文帯神獣鏡3面、方格規矩鏡4面、鼉龍鏡（だりゅうきょう）1面、内行花文鏡14面が出土しました。
『広陵町史』本文編P22～30、『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P10

問32 エ

南北13m、東西18mの方墳で、埋葬施設は、右片袖横の穴式石室、6世紀末の築造と考えられています。
『広陵町史』本文編P71、『文化財と自然探訪マップ』

問33 ア

全長4.2mの前方後円墳で、埋葬施設は木棺直葬です。木棺の周囲に排水用の石が詰められていました。6世紀後半の築造と考えられています。4～6号墳とともに平成8年町の史跡に指定されました。

『広陵町史』本文編P60～62、『文化財と自然探訪マップ』

問34 ア

2号墳と3号墳は、宅地開発により消滅しました。

『文化財と自然探訪マップ』

問35 エ

棺内から出土した人骨、歯牙の鑑定から、被葬者は成人男性3人、女性2人、幼児2人の合計7人と判明しました。改葬された人骨と追葬された人が同一棺内に埋葬されたと考えられています。

『広陵町史』本文編P82～84、『文化財と自然探訪マップ』

問36 エ

墳丘の規模は、削平により不明で、埋葬施設は無袖式の横穴式石室です。古墳時代後期に築造されたと考えられています。

『文化財と自然探訪マップ』

問37 ウ

1号墳は、直径3.5mの円墳で古墳時代後期、2号墳は直径1.5mの円墳、3号墳は全長8.0mの前方後円墳で古墳時代前期に築造されたと考えられています。

『広陵町史』本文編P41、『文化財と自然探訪マップ』

問38 イ

黒石13号墳は、南北1.9m、東西1.6mの円墳です。石室内には石棺が2基あり、須恵器、土師器等の他、象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。古墳時代後期の築造と考えられています。

『広陵町史』本文編P72～75、『文化財と自然探訪マップ』

問39 エ

乙女山古墳は、全長130mで、馬見丘陵公園には含まれません。佐味田狐塚古墳は、河合町にあります。

『広陵町史』本文編P55～56、『文化財と自然探訪マップ』

問40 イ

奈良県第二浄化センター建設工事に伴う発掘調査で発見された箸尾遺跡は、広陵町大字萱野及び大字沢並びに河合町大字長楽に広がる大集落で、縄文時代から中世までの遺構や遺物が検出されています。

第二浄化センター内には、出土した遺物の一部が展示されています。
『広陵町史』本文編、『文化財と自然探訪マップ』

問41 エ

文代山古墳は、一辺4.8mの方墳で、南側に造り出しが付きます。猪、犬、馬形埴輪が出土し、古墳時代中期後半の築造と考えられています。

『広陵町史』本文編P56～59、『文化財と自然探訪マップ』

問42 ウ

佐味田狐塚古墳は、全長8.6mの帆立貝形古墳です。町道上田部・奥鳥井線は、昭和50年代の真美ヶ丘ニュータウン開発に伴い造られました。

道路の緑色に塗られている部分が、古墳の範囲を表しています。
『広報こうりょう』平成26年9月1日号P24、『文化財と自然探訪マップ』
『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P30

第4 寺院・神社分野

問43 イ

建築様式から鎌倉時代中期に建てられたと考えられています。明治39年に国の重要文化財に指定されました。

毎年4月15日の会式と8月15日の法要の時に塔内部が一般公開されます。

『広陵町の重要文化財1 百済寺三重塔』P2

問44 エ

談山神社享保造替時の本殿を、寛政8年（1668年）に他へ転用された後、百済寺に嘉永6年（1853年）移築されたと考えられます。平成10年に町の有形文化財に指定されました。

『広陵町の重要文化財1 百済寺三重塔』P3

問45 エ

現在も行方不明です。

『広陵町の重要文化財1 百済寺三重塔』P4

問46 ウ

万葉学者・犬養孝が揮毫し、昭和53年に建てられました。

『ふる里の文化財をたずねて』カラー図版P2

問47 ウ

十一面観音立像（鞆仏）の解体修理時に発見されました。平成17年に国の重要文化財に指定されました。

毎年4月21日の春の大祭の時に一般公開されます。

『広陵町史』本文編P1027～1028、『文化財と自然探訪マップ』

『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P12

問48 ア

春日厨子の天井板下面に「寛正二二癸未○右順 与楽寺西観音 慶安二二辛卯順奉加被損」の銘があり、これにより天福元年（1233年）に造立された十一面観音立像（鞆仏）を納めるために春日厨子が寛正4年（1463年）に造られ、慶安4年（1651年）に修理されたことがわかります。平成10年に町の有形文化財に指定されました。

『広陵町史』本文編P1026～1027・1098、『ふる里の文化財をたずねて』P125

問49 イ

アは元興寺（奈良市）、ウは法隆寺護摩堂（斑鳩町）、エは大福寺（広陵町）の弘法大師像で、与楽寺の座像は奈良県下で2番目の古さです。平成7年に県の有形文化財に指定されました。

『広陵町史』本文編P1021～1024、『文化財と自然探訪マップ』

問50 ウ

教行寺は、文明年間（1469年～1487年）に開かれました。本堂は嘉永元年（1848年）に再建された大伽藍で、平成19年に対面所・書院とともに県の有形文化財に指定されました。

『ふる里の文化財をたずねて』P92

問51 イ

現在でも3,000坪におよぶ境内は、文久2年（1862年）の教行寺境内指図では現在の2倍の広さに描かれています。

『文化財と自然探訪マップ』、『ふる里の文化財をたずねて』P92

問52 ウ

大福寺本堂に、向かって右に胎蔵界、左に金剛界の板絵が置かれています。楽田寺（田原本町）の灌頂堂の曼荼羅として応永30年（1423年）に完成しました。昭和61年に県の有形文化財に指定されました。

あとの3寺は梵字池のある寺です。

『広陵町史』本文編P1043～1047、『文化財と自然探訪マップ』

問53 ア

永禄3年（1560年）の造立で、右手に本来地藏菩薩が手にする錫杖を持ち、左手に蓮華を挿した水瓶を持ちます。また、左側に難陀竜王像、右側に雨宝童子像が侍立する特異な三尊構成も長谷寺式の特徴です。昭和42年に県の有形文化財に指定されました。

『広陵町史』本文編P1032～1035、『文化財と自然探訪マップ』

問54 ア

宝冠をのせ、天冠台下の髪をまばら彫りで表現し、上半身が裸形、両手を腹前に置いて法界定印を結ぶ姿は大日如来と考えられます。なぜ“弥勒菩薩”と呼ばれるようになったかは不明です。昭和54年に県の有形文化財に指定されました。

『広陵町史』本文編P1018～1019、『文化財と自然探訪マップ』

問55 ア

大福寺の十一面観音立像と同じ長谷寺式です。像高が2mを超える町内で最大の仏像です。平成6年に県の有形文化財に指定されました。

『広陵町史』本文編P1019～1021、『文化財と自然探訪マップ』

問56 エ

版木に彫られた毘沙門天、不動明王、十一面観音、如来等の印仏が総計4,628体納められていました。平成10年に町の有形文化財に指定されました。

『文化財と自然探訪マップ』

問57 イ

大字古寺にある八坂神社境内にあります。平成8年に町の天然記念物に指定されました。平成25年には樹木医による診断を受けました。

『広陵町史 本文編』P1174、『文化財と自然探訪マップ』

問58 イ

立山を立てないと「不治いる（病気や事故が起きる）」と伝えられ、公民館や新築した家、婚礼があった家等に飾りつけられます。平成8年に町の無形民俗文化財に指定されました。

『広陵町史』本文編P1081、『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P16

問59 ア

干ばつの時の雨乞いに使われたもので、仏像を担いで練り歩き、近くの千刈池に投げ入れ、雨が降るときれいに洗って持ち帰ったそうです。

なぜ“太郎さん”なのかは不明です。

『広陵町史 本文編』P1005、『文化財と自然探訪マップ』

『ふる里の文化財をたずねて』P39

問60 ウ

稲作の豊穰祈願、曾我川の氾濫や疫病等の禍を防ぐための伝統行事で、境内全体を取り囲むように太い藁綱を架け渡します。平成10年に町の無形民俗文化財に指定されました。

『広陵町史 本文編』P1078～1080、『文化財と自然探訪マップ』

『ふる里の文化財をたずねて』P80

問61 エ

弘安7年（1284年）に勧請され、箸尾四ヶ村（弁財天・的場・萱野・南）の氏神となりました。

あとの三社は日本三大弁財天です。

『広陵町史』本文編P961～964、『文化財と自然探訪マップ』

問62 ア

木鏡3面の表面には梵字が書かれており、於神社の祭神である天照大神、天児屋根命、品陀和気命の本地を表しています。

『広陵町史』本文編P833～834・920～921

『ふる里の文化財をたずねて』P20・22

問63 エ

『延喜式』神名帳に書かれた「広瀬郡五座」の内の、穗雷神社に比定されています。町内では他に、讃岐神社、櫛玉比女命神社、於神社も式内社です。

『広陵町史』本文編P147～152・923～924、『文化財と自然探訪マップ』

『ふる里の文化財をたずねて』P23

問64 イ

明治24年の『神社明細帳』では、戦国時代にこの地域を支配した箸尾為春から寄進されたと伝えられています。

『広陵町史』本文編P931～933、『ふる里の文化財をたずねて』P40

問65 エ

室町時代に箸尾氏の崇敬を受け、江戸時代には郡山藩主の本多氏の保護を受けました。郡山藩主の家臣であった柳沢家も篤く信仰しました。

『広陵町史』本文編P968～970、『文化財と自然探訪マップ』

『ふる里の文化財をたずねて』P106

問66 ウ

それぞれの像高は、念願寺の誕生釈迦仏立像が8.7cmで祐福寺は9.6cm、手先の方向は念願寺が外向きで祐福寺は内向きです。祐福寺の像は頭部や顔面の形が崩れてよく分かりません。両方とも奈良時代の制作と考えられており、奈良国立博物館に寄託されています。

『広陵町史』本文編P1003～1004・1015～1016、『文化財と自然探訪マップ』

第5 特産品分野

問67 ウ

織布やプラスチック、靴下は広陵町を代表する特産品です。織布は、大和木綿の産地だったこともあり、明治時代から盛んに生産されてきました。町内でプラスチック製品づくりに着手したのは昭和30年代前半のことです。当時は家内工業的な事業所が数軒あった程度ですが、その後、急速に同業者が増えていきました。また、靴下は、明治末期にアメリカから靴下用の手回し編み機を導入したことに始まります。日本一の靴下生産地である奈良県の中核産地として発展しており、まさに、“靴下のまち”だといえます。

『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P17～18

『緑と歴史あふれるまち 奈良広陵町』P12～14

問68 エ

広陵町の豊かな水と肥よくな土壌を生かし、昭和35年から栽培が本格的に始められました。昭和43年には「夏秋なす」、昭和62年には「冬春なす」が国の野菜指定産地となり、広陵町を代表する特産野菜として、主に近畿圏の大都市へ出荷されています。

『広陵町 暮らしのガイド』P25

『奈良県広陵町 町勢要覧2014』P18

問69 エ

「広陵蔵」は広陵町みどりのふるさと応援寄付金のお礼の品としても選べます。
(2ポイント～)

「広陵町ホームページ（広陵町みどりのふるさと応援寄付金）」より。

問70 ア

なすレシピコンテストでは、最優秀賞「なすとツナのおすし」、優秀賞「広陵サンドイッチ」、特別賞「ナスカバリー」「夏の棒茄子」「なすとチーズのとろとろホットサンド」が選ばれています。最優秀賞の「なすとツナのおすし」は平成30年10月29日に小学校給食でも提供されました。

『広報こうりょう平成30年7月1日号』P14

『広報こうりょう平成30年8月1日号』P15

第6 祭り・イベント分野

問71 ウ

4月と11月の最終週の土日に行われ、靴下や地域の特産品が販売されます。広陵町商工会の一大イベントとなっています。

『広陵町 暮らしのガイド2017』P22

問72 ア

「第24回広陵かぐや姫まつり」では、特別公演よしもお笑いライブにおいて、月亭八光さん、タナからイケダさん、十手リンジンさんに出演いただきました。

『第24回広陵かぐや姫まつり ちらし』

問73 イ

「広陵フェス 秋の大収穫祭」が平成30年11月10日・11日に開催されました。ゆるキャラとの記念撮影やダンス、職業体験等が行われ、会場には多くの広陵ファンが集まり、大いににぎわいました。

『広報こうりょう平成30年12月1日号』P12～13

問74 ア

葛城地域観光協議会（大和高田市、御所市、香芝市、葛城市、広陵町）が、共同でこの地域を舞台にした映画を制作しました。ヒロインの吉井さくらを演じたのが小芝風花さん。平成29年2月上映開始されました。皆さんもぜひご覧ください。

『広報こうりょう平成28年10月1日号』P28

『広報こうりょう平成29年1月1日号』P8

問75 エ

俳優・ナレーターとして活躍している森本レオさんが務められました。

『広報こうりょう平成28年10月1日号』P28

『広報こうりょう平成29年1月1日号』P8

問76 イ

平成30年9月15日にクリーンセンター広陵で、ゴミ減量フェアが開催されました。バザーやフードドライブも同時開催されました。

『広報こうりょう平成30年6月1日号』P5

問77 ウ

月を眺めることが趣味のかぐやちゃん。月に代わっておしおきするわけではありませんよ。

『広陵町くらしのガイド2017』P9

第7 行政分野

問78 ア

「広陵」は、昭和25年に馬見村・瀬南村・百済村が学校組合を設立してつくった中学校名として初めて使われました。由来は、明治30年に「北葛城郡」となる前は「広瀬郡」だったこと、組合立中学校が丘陵部に設置されたことによります。

『広陵町史 本文編』P1093

問79 エ

広陵町では、産業の基盤強化及び持続的な発展並びに町民の雇用機会の創出を図るため、平成26年4月1日付けで広陵町企業立地促進条例を制定し、積極的な企業立地を進めています。

「広陵町ホームページ「企業立地」

問80 イ

それぞれ9ホールの広瀬路コースと百済路コースがあり、合計で18ホールとなっています。

『広陵パークゴルフコースパンフレット』



問81 エ

平成29年11月1日からお買い物ポイント制度がスタートしました。

この制度は、コミュニティバス「広陵元気号」を利用するとポイントが貯まり、20ポイントが貯まると、町内の協賛店舗（イズミヤ広陵店、エバグリーン広陵店、エコール・マミショッピングセンター）の指定商品と交換できるものです。

広陵元気号を利用して、ぜひお買い物に出かけてください。

『コミュニティバス広陵元気号時刻表』

問82 ア

『広報こうりょう』の情報をもっと身近に活用していただくために、無料アプリの「マチイロ」を利用して、スマートフォン・タブレット端末へ配信しています。

『広報こうりょう平成30年1月1日号』P2～3

問83 エ

広陵町は、昼間保護者が労働等により、家庭にいるかいないかを問わず町内小学校に在籍する小学校1年生～6年生の児童に対して安全、安心な活動拠点づくりと、学ぶ意欲がある児童に学習の機会を提供しています。

『広陵町くらしのガイド2017』P59

問84 イ

奈良県の定めた「まほろばエコスタイル期間」、冷房の過度な利用を抑えるために実施しています。

問85 ア

「町の木」はモクセイ、「町の花」はヒマワリと制定されています。町民憲章とともに、昭和52年12月20日に制定されました。

「広陵町ホームページ」

問86 ウ

広陵町では町制60周年を記念して、豊かな自然と歴史や文化に恵まれた広陵町を町内外にアピールするため、広陵町イメージソング「広き陵（ひろきおか）」を制作しました。

『広陵町くらしのガイド2017』P9

問87 ア

田原本町大字宮古にある国保中央病院は、川西町、三宅町、田原本町及び広陵町の4町によって設立された自治体病院です。

『広陵町くらしのガイド2017』P54



問88 イ

町のチャレンジデーは、4回目の挑戦であり、鹿児島県南さつま市と対戦しました。参加率は、広陵町が58.6%、南さつま市が70.2%で惜しくも敗戦となりました。

「広陵町ホームページ」

問89 イ

広陵町では、出生のお祝いとして新生児に絵本をプレゼントしています。

問90 イ

「今は昔竹取の翁といふものありけり……」で始まる竹取物語の序段で、「名をば讃岐造となむいひける。」とあります。この地が讃岐（散吉：さぬき）、また讃岐神社もあることから、広陵町が竹取物語の舞台ではないかと言われていきます。かぐや姫の伝承にまつわる広陵町のまちおこしの源流の一つです。



第8 地域・道路分野

問91 イ

平成28年度に実施された空家等実態把握調査では、広陵町内における空家候補は水道の閉栓情報等に基づき888件が対象とされました。平成29年度に上記の成果を精査した結果、空家等に該当する物件は206件ありました。

「広陵町ホームページ「広陵町空家等対策計画」」

問92 エ

子育て中の親子が気軽に集い、自由に交流できる場所として、なかよし広場を開設しています（広陵北かぐやこども園なかよし広場、さわやかホールなかよし広場、マミつどいの広場）。参加者同士が交流を深め、お子さまだけではなく、お母さん自身もお友達を作り、子育てを楽しめる機会にしませんか？なお、はしお元気村「なかよし広場」は平成30年3月30日をもちまして終了し、場所を広陵北かぐやこども園に場所を変更し、平成30年4月16日から新たにスタートしました。

『広報こうりょう平成30年4月1日号』P13

問93 エ

広陵町社会教育委員会編纂『ふるさとの言葉』No.109



問94 ウ

福井県美浜町と広陵町は、小学生の漁業体験など10年を超える交流を続けています。第20回広陵かぐや姫まつり（平成26年9月20日）において正式に友好交流協定を締結しました。

『広報こうりょう平成26年11月1日号』P3

問95 ウ

畿央大学が奈良県で初めて文部科学省の補助事業である「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された事を受けてスタートしました。「Keeping Active across Generations Uniting the Youth and Age」の頭文字をとったものです。

問96 ウ

5,000円から1ポイントとして、ふるさと納税していただけます。
『広陵町みどりのふるさと応援寄附金』

問97 イ

かぐや姫が大納言大伴御幸に出す難題に由来します。
一度竹取公園に足を運んでみてくださいね。

問98 イ

広陵町の玄関口に町をPRするものとして、町が田原本線開業100周年に合わせて作りました。身長は172cmあります。
『広報こうりょう平成30年9月1日号』表紙

問99 エ

広陵町では3路線の地域公共交通が走っており、中央幹線は「赤」、北東部支線は「青」、西部支線は「緑」となっています。
『コミュニティバス広陵元気号時刻表』



問100 ア

平成30年4月に開園したのは「広陵北かぐやこども園」で、広陵北幼稚園と広陵北保育園を合併し、新たな保育サービスの充実を図るために建築されました。
「広陵町ホームページ」